

# コロナ禍 変わるお別れ

新型コロナウイルスの感染拡大で、葬儀のあり方が変化している。遠方や感染拡大地域から駆けつけられない人のため、オンラインで葬儀を中継するサービスが生まれ、通夜を行わないなど簡素化の動きも加速。コロナ終息後も見据えた「お別れ」の新たな形となるのか注目される。



オンライン中継に向け、スマホの撮影位置を調整する「ベルこばやし」の池杉副社長（3月18日、上越市藤巻で）

## 葬儀をオンライン中継

広々としたセレモニーホールに、間隔を空けて並べられた椅子。その後方で、上越市の葬祭業「ベルこばやし」の池杉副社長（62）が三脚にスマートフォンを設置していた。故人の遺影や参列者の後ろ姿を映すため、照明が暗くなりすぎないように調整にも余念がない。

同社は3月、「オンライン葬儀 つなぐ」のサービスを始めた。新型コロナウイルスの感染を懸念し、参列できない遺族のために、スマホで通夜や葬儀の様子を撮影し、動画配信サイト「YouTube」で生中継する。葬儀後1週間ほどは専用サイトにアップし、当日都合のつかない人も見ることができるようになる。

## 参列者減、「一日葬」簡素化加速

池杉副社長は「葬儀の簡素化が進み、別れを大事にする風土まで失われてしまっているのでは」と話す。

オンラインなら感染を気にせず、遠方の人でも参列できるという。「コロナ禍でも故人とのつながりを大切にしたい」と語る。

オンラインの活用は葬儀にとどまらない。新潟田市の長徳寺は昨年のお盆に、永代供養の法要をオンライン中継し、30〜40人が参列した。その後も一週忌や三回忌の法要をビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」で中継し、マレーシアから参加した人もいたという。

オンライン葬儀の将来性を見据え、参入したIT会社もある。新潟市北区の「アイビシステム」（若桑茂社長）は、通夜や葬儀を中継するシステム「Live de（ライブデ）葬儀」を開発。葬儀会社に撮影用の専用アプリが入ったスマホを貸出し、参列者は葬儀会社から送られてくる視聴用のQRコードやURLにアクセスすると、葬儀の中継をみることができると語る。

## 東電社員

14日県議

東京電力柏崎刈羽発電所でテロ対策の相次いで発覚した問題。県議会は6日の議事録で、14日に全出席する連合委員会、東電の小早川社長を参考人招致することを決めた。一連の問題

## ア運航開始 4路線で

### LCC県内に本社

セミナー後、取材に応じる長谷川社長（6日、新潟市中央区の市産業振興センターで）

## 来年 関西圏、愛知など

県内に本社を置く初めての格安航空会社（LCC）として2022年の運航開始を目指している「トキエア」（新潟市中央区）が、新潟空港と北海道、関西圏などを結ぶ4路線で運航をスタートさせる見通しであることがわかった。新潟市で6日に開かれた企業向けセミナーで、同社の長谷川政樹社長（53）が明らかにした。

新潟空港と、関西圏、愛知、北海道（丘珠）、仙台を結ぶ4路線でスタートし、その後、新潟―佐渡や新潟―東京に路線を増やす計画という。長谷川社長は、佐渡―東京路線についても「何とか飛ばしたい。佐渡金銀山が世界遺産になれば観光面の期待も高まる」と話し、関係機関と調整していることを明らかにした。

## 新たに20人感染 1週間あたり最多

この日感染が発表したのは、新潟市の8人、市の4人、魚沼市の10日町市と南魚沼市、田市、長岡市、津南、住地非公表の各1人



展示されている巨大なヒスイ（2日、新潟市中央区新光町の「知足美術館」で）

## ヒスイ文化を解説

知足美術館 原石など並ぶ

ヒスイ研究の第一人者と知られる茅原一也・新潟大名教授（1921〜2006年）の生誕100周年を記念し、新潟市中央区新光町の知足美術館で企画展「ヒスイ文化を読む」が開かれている。

茅原名誉教授がフォッサマグナ断層を発見するために作製した手書きのルートマップや、調査で使ったハンマーなどを展示。ヒスイは、触ることのできる巨大な原

## 堤防で転落か 捜索6時間

釣り具残し立ち去っただけ